

が消息不明の3例を除くと2例だけが現在まで無症状に経過しており、うち1例に今回の検査で総胆管結石がみられた。胆管炎のために再手術を受けたものが4例、死亡が3例あり極めて不良な治療成績であった。胆嚢十二指腸吻合術が行われた1例も総胆管結石のため再手術となっており十二指腸とのバイパス術は問題の多い術式と考えてよさそうである。これに対し嚢胞空腸吻合術が行われた4例のうち死亡例1例を除く3例は良好で現在まで無症状に経過していた。しかしこの3例中今回検査した2例に膵管胆管合流異常が認められていることより癌化等の問題もあり今後再手術も含め厳重にフォローする必要があると考えられた。

#### 15) 小児上部尿路通過障害 8例の治療経験

内藤 真一・大田 政廣 (山形大学医学部)  
山際 岩雄・小幡 和也 (第二外科)  
鷺尾 正彦

小児期に上部尿路通過障害をきたし水腎・尿管症を呈する疾患は、成人におけるように結石・炎症・腫瘍などは少なく、腎盂尿管移行部狭窄、重複尿管、膀胱尿管逆流などのように先天性の尿路の解剖学的異常によるものが大部分であり、また先天性水腎症は出生前診断のつく疾患として近年注目されている。当科では昭和58年以来、腎盂尿管移行部狭窄4例6腎に対して腎盂形成術、膀胱尿管逆流2例に対して尿管膀胱新吻合術、重複尿管2例に対して半腎摘出術の手術経験がある。腎は保存的に治療しており、現在までのところ良好に経過している。これらの症例に若干の考察を加えて報告する。

#### 16) 肺癌を疑われた犬糸状虫症の1治験例

興梶 建郎・小林 貞雄 (水原郷病院)  
井上雄一郎 (外科)  
斉藤 透・鈴木 俊夫 (同 内科)

44歳の女性で、集団検診の胸部X線検査で左下葉 S<sub>8</sub> に円形陰影を指摘された。胸部 CT 検査、気管支鏡検査及び気管支造影では S<sub>8</sub> の 1.5cm 大の円形腫瘍と診断され、病理診断では Few atypical cell 悪性を否定できず、とされ肺癌の疑いにて、転科、開胸手術を行った。術中の所見では、腫瘍は 15×10mm 楕円球状で、弾力性に富み、比較的軟らかで、良性と判断し S<sub>8</sub> の楔状切除を行った。剖面では径 11mm 球状で、内に壊死物質を認め、病理検査で、その中に石灰化した寄生虫を発見し、犬糸状虫症と診断した。本症は非常に稀な疾患で本邦で 26例が、新潟県では 2例が報告されている。本患者も罹病 3年前に犬を飼っていた事がある。

#### 17) α-Fetoprotein 産生肺癌の1手術例

高橋 善樹・山口 明 (新潟がんセン)  
寺島 雅範 (ター胸部外科)  
栗田 雄三・木滑 孝一 (同 内科)  
横山 晶  
角田 弘・鈴木 正武 (同 病理)

α-フェトプロテイン産生原発性肺癌の1手術例を経験したので報告する。

症例：57才、男性。

既往歴：22才頃、肺結核症で入院、加療した。

現病歴：昭和61年8月、胃潰瘍と診断され、入院加療の際、胸部X線写真で右肺の異常影を指摘され、また AFP 555ng/ml と高値を指摘された。自覚症状はない。

所見：右肺 S<sub>3</sub>～S<sub>4</sub> に及ぶ 3.4×3cm 大の陰影あり、c T<sub>2</sub>N<sub>1</sub>Mo Stage II AFP 2997ng/ml と高値を呈していた。腹部 CT や肝シンチでは異常なく、睾丸腫瘍も存在しなかった。AFP の分析では、コンカナバリン A 結合分画 28%、レンズ豆レクチン結合分画 84% であった。

手術：昭和62年1月、右上中葉切除術兼 R<sub>3</sub>郭清術を施行した。p T<sub>2</sub>NoMo Stage Ia 絶対治癒切除術であった。組織学的には中等度分化型腺癌であり PAP 染色で AFP の存在を認めた。

#### 18) 末梢動脈疾患手術症例の検討

君川 正昭・藤田 康雄 (立川総合病院)  
片桐 幹夫・春谷 重孝 (心臓血管セン)  
坂下 勲 (ター胸部外科)

昭和44年から昭和61年までの18年間に、当院胸部外科で経験した末梢動脈疾患手術症例について、疾患を閉塞性動脈硬化症、ビュルガー病、その他(塞栓、動脈瘤、外傷など)に分け、また期間を昭和44年から50年、51年から57年、58年から61年までの3つの期間に分け比較検討した。

昭和58年以降症例数の著増が認められたが、これは閉塞性動脈硬化症の増加によるものであり社会の高齢化を反映しているものと思われる。今後更に閉塞性動脈硬化症症例を主体とした末梢動脈疾患症例の増加が推測された。

#### 19) 大血管疾患の診断における MRI の有用性

片桐 幹夫・君川 正昭 (立川総合病院)  
藤田 康雄・春谷 重孝 (心臓血管セン)  
坂下 勲 (ター胸部外科)

当院では、昭和61年9月から磁気共鳴映像法 (MRI) を臨床診断に導入した。装置は東芝製 MRI-22A である。これまで大血管疾患の診断の目的で17例に施行した。